

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)リヴィエール西小倉ガーデンテラス新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5	 -	がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.0
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.9
	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3
	Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.1
非構造材の一部にリサイクル材を使用	階高を3.00m以上とする
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.7
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.3
	LR2/ 1.1 節水 スコア 4
断熱等性能等級4相当	節水型便器の採用
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.3
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1
	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 1
	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 2
特になし	高効率給湯器(エコジョーズ)を採用、また最上階の住戸においては電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機を採用
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
	建物の外皮性能 (BPI評価)
	非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 等級4
特になし	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)
	非住宅:BEIm値、住宅: -
	外構緑化指數 0 %
	建物緑化指數 0 %



: 入力欄

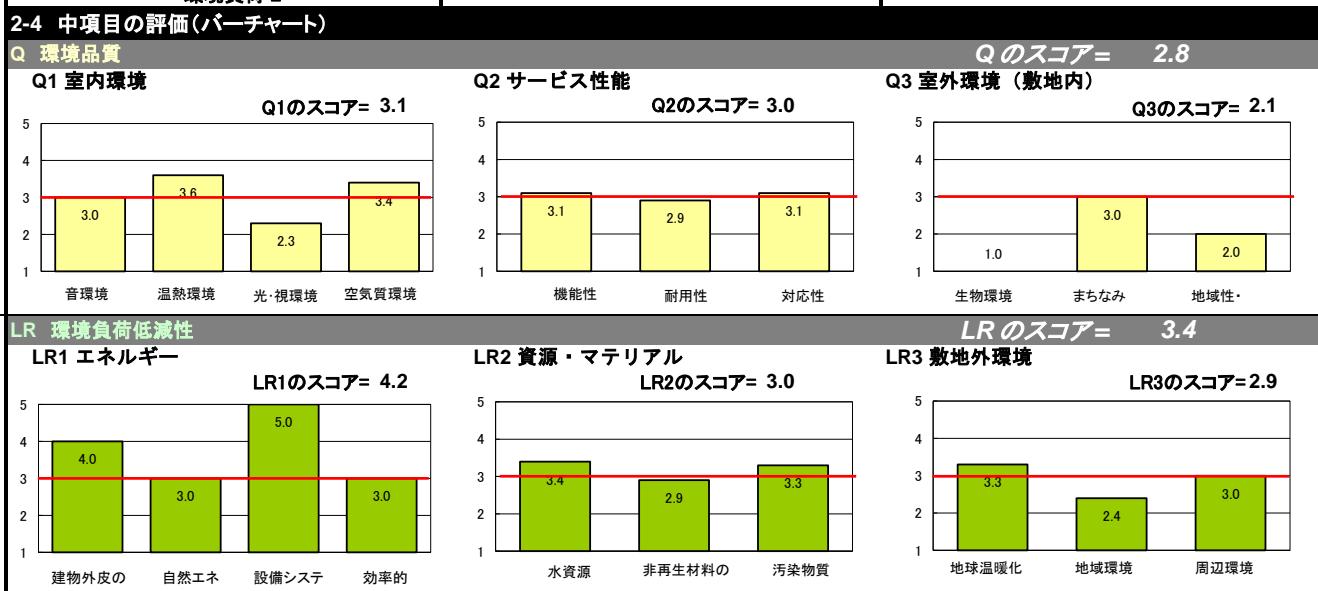
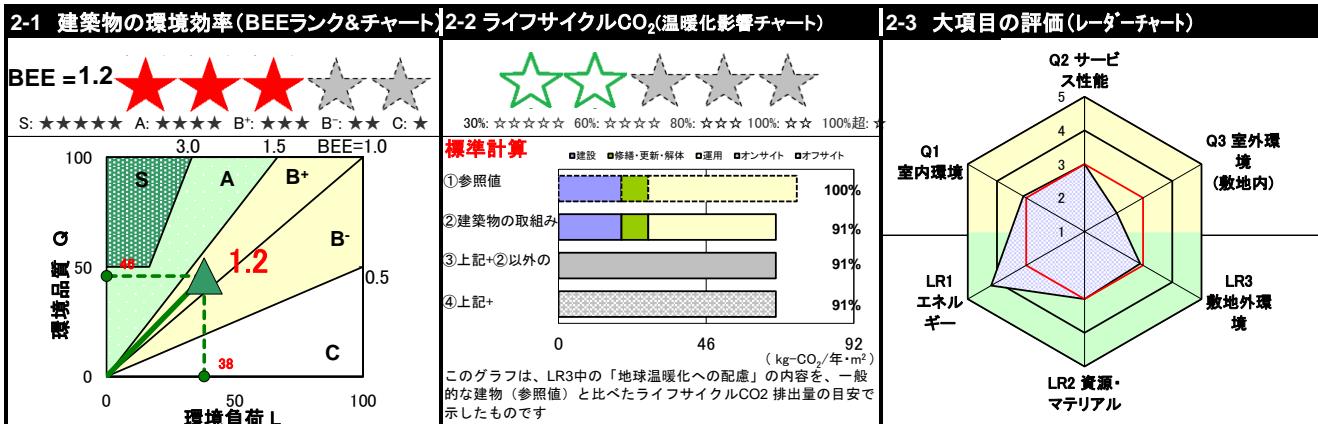


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リヴィエール西小倉ガーデン	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市小倉北区愛宕1丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	164人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2024年9月10日
敷地面積	1,734 m ²	作成者	前畠
建築面積	397 m ²	確認日	2024年9月10日
延床面積	4,044 m ²	確認者	前畠



3 設計上の配慮事項		その他	
総合 全39戸の共同住宅において、周辺の街並みに配慮した環境形成と、子育て世代の居住に対応した防犯、住戸計画を行った。			
Q1 室内環境 内装の仕上げ材にF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用。	Q2 サービス性能 住戸居室部天井高さを2.5m確保、また階高を3.06m以上を保有する。	Q3 室外環境 (敷地内) 街路に面して植栽を配置することで、良好な景観の形成に寄与する。	
LR1 エネルギー 断熱等性能等級における等級4相当。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器の採用。	LR3 敷地外環境 最上階の住戸においては電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機を採用、他住戸においても高効率給湯器（エコジョーズ）を採用。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)リヴィエール西小倉ガーデンテラス 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	スコア						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境			3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音	—		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能	—		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	—		3.0	-	3.0	-	
2 溫熱環境			2.6	0.35	4.0	1.00	3.6
2.1 室温制御	—		3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温	—	硬質ウレタンフォームA種1Hを採用	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	—		3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性	—		3.0	-	3.0	-	
2.2 湿度制御	—		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	—		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			2.7	0.25	2.2	1.00	2.3
3.1 昼光利用	—		3.0	0.30	1.4	0.50	
1 昼光率	—		-	-	1.0	0.50	
2 方位別開口	—		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備	—		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策	—		2.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御	—		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度	—		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	—		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境			3.0	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策	—		3.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を内部仕上全面的に採用		3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気	—		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量	—		-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能	—		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—		3.0	1.00	3.0	0.33	
4.3 運用管理	—		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視	—		3.0	-	3.0	-	
2 喫煙の制御	—		3.0	-	3.0	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.0
1 機能性			3.0	0.40	3.2	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ	—		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性	—		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	—		3.0	-	3.0	1.00	
3 パリアフリー計画	—		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性	—	住戸の居室部天井高さを2.5m以上確保	3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	—		3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—		2.0	-	3.0	-	
3 内装計画	—		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理	—		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	—		3.0	0.50	3.0	-	
2 維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振	—		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	—		3.0	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数	—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	—		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	—		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	—		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	—		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	—		2.0	0.20	-	-	

		3.0	0.30	3.2	1.00	3.1
3 対応性・更新性						
3.1 空間のゆとり						
1 階高のゆとり	階高3.0m以上とする	3.0	-	3.4	0.50	
2 空間の形状・自由さ	-	3.0	-	5.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり	-	3.0	-	1.0	0.40	
3.3 設備の更新性						
1 空調配管の更新性	-	3.0	1.00	-	-	
2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	壁紙の接着剤に有害物質を含まないものを採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	高効率給湯器(エコジョーズ)を採用	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮		2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	-	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制	-	3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)リヴィエール西小倉ガーデンテラス 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0		O	O	-	-	O	O						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	O	-	-	-	-	-	O	-	O	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	O	O	-	-	O	-	-	O	-
2.4.1 空調・換気設備	-		O	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	O	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	O	-	-	-						
2.4.5 通信・情報設備	1.0		O	-	-	-	-	-	-						
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 集排水等再利用システム導入の有無			-												
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0		-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	1.0	-	-						
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -U値(W/m²K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 0.9 η_{AC} 2.3 η_{AH} 2.3

昼光率 0.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 車体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2.1 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
空地率	20%	水平投影面積率	0% 地表面対策面積率 0% 補装面積率 0%

BPI/BPI _m	0.45	断熱等性能等級	等級4相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
		通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
BPI/BPI _m	非住宅 0.45 住宅 -	太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW	
雨水利用率	0.0%		
特定調達品目	-	エコマーク商品	- 自治体指定の特定品目等 -
使用比率	0.0%		
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	

見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標Rw 0.40
地表面対策面積率 0.0% 屋根対策面積率 0.0% 外壁対策面積率 0.0%
見付面積Sb m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 0 m 基準高さHb 0 m

緑地 m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²
